



写真1 九段会館テラス

九段会館テラス

「九段会館テラス(写真1)」は、登録有形文化財「旧九段会館」の保存・復元プロジェクトにより、九段下の新しいランドマークとして11月1日にオープンした。皇居外苑のお堀に隣接し、「旧九段会館」を建物北側と東側部分のL字状に保存し、保存部分と地上17階建ての複合ビルの新築部分が一体となった建造物である。

昭和9年に創建された「旧九段会館」は、洋風な外観に和風瓦の屋根をもつ「帝冠様式」の西洋と東洋を融合させたレトロモダンな美しい佇まい。その雰囲気はそのままに、創建当時の技術・素材を活かして保存・復元を行なった。保存部分は単に展示して眺めるだけの場にせず、あえて日常利用を続ける動態保存とすることで、「旧九段会館」の歴史を身近に感じながら過ごせる空間となっている。

「九段会館テラス」の玄関前の敷地には、植栽が施された「歴史の小径」があり、戦前からある記念碑や、「旧九段会館」解体時に出土した杭(写真2)などの展示がある。杭は、現在も保存部分を約1,900本で支えている。他にも敷地内には歴史を感じさせる回廊がある。建物西側の回廊を、お堀を目線の高さで眺めながら進むと、「旧九段会館」の保存部分と新築部分の建物の境目が露わになる。昭和から平成を経て令和への継承を目の当たりにする。

<参考>

九段会館テラス

<https://www.tokyokudan.com/>



写真2 コンクリート杭先端部

